

## 解答

問1 杉田玄白

問2 理由 オランダはキリスト教の布教をしなかったから。

国名 中国

問3 ア

問4 米 北海道・新潟県

りんご 青森県・長野県

問5 ア

問6 すべての国民が、健康で文化的な最低限度の

問7 南極の海には鯨が多く生息していたため、1950年代以降、日本の捕鯨船がナガスクジラやマッコウクジラを獲るために南氷洋へ行った。その際、南極のペンギンが捕鯨船で日本に連れて来られたから。

問8 今までの動物園は、来場者を楽しませるために、珍しい動物の展示に力を入れてきた。フンボルトペンギンが絶滅の危機にさらされるまで減少した原因の1つは、展示のために数多く捕獲されたことにあると考え、飼育員は保護する責任を感じるようになった。そこで、ペンギンに関する調査・研究を進め、飼育の技術を高める一方、来場者に正確な知識を伝えるように展示を工夫するなどの活動によって、人々の意識を変え、保護運動を盛り上げていく役割を果たそうとしている。

## 解説

問1 杉田玄白は、前野良沢らとともに、オランダの医学書『ターヘル・アナトミア』を翻訳し、『解体新書』として1774年に出版しました。

問2 江戸幕府は、キリスト教の禁止を目的として、外国との貿易を極端に制限するようになりました。1635年、徳川家光のときに、日本人が海外に出かけることや、海外にいる日本人が帰国することを禁止しました。また、1624年にはスペイン船の来航を、1639年にはポルトガル船の来航を禁止しました。その一方で、キリスト教の布教を行わないオランダと、キリスト教国ではない中国に対しては貿易を許可しました。なお、1644年には明にかわって、清が中国を統一しました。

問3 オーストラリアからのおもな輸入品は石炭・鉄鉱石・天然ガスなどの地下資源です。日本のおもな輸出品は、自動車・機械類などの工業製品です。オーストラリアとの貿易では、日本の輸入額が輸出額を大幅に上回り、日本の貿易赤字となっています。

問4 米の生産量では、近年、北海道と新潟県が全国第1位と第2位を争っています。北海道では石狩平野や上川盆地での、新潟県では越後平野での稲作がさかんです。りんごの生産量が多い都道府県は、青森県と長野県です。青森県では津軽平野での、長野県では長野盆地でのりんご栽培がさかんです。

問5 アは1931年(戦前)、イは1914～1918年(大正時代)、ウは1964年(戦後)、エは1910年(明治時代)です。よって、昭和時代初めのできごとはアです。

問6 日本国憲法第25条には、「すべて国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する」と定められています。この権利を生存権といい、基本的人権の中の社会権の1つです。

問7 《資料1》から、南極の海には多くの鯨がいたことがわかります。《資料2》から、1950年以降、日本は南氷洋で多くの鯨を捕獲するようになったことがわかります。《資料3》では、ペンギンが捕鯨船で連れてこられたと説明されています。これらのことから、1950年代以降、動物園や水族館で南極のペンギンが多く飼育されるようになったおもな理由は、鯨を獲るために南氷洋へ出かけて行った捕鯨船によってペンギンが日本に連れて来られたためであったことがわかります。

問8 フンボルトペンギンは、南アメリカのチリやペルーなど、太平洋に面した沿岸を中心に生息しているペンギンです。野生のフンボルトペンギンの生息数は、《資料5》の1996年では約1万2千羽となっていますが、現在ではさらに減少し、絶滅の危険がますます強まっています。ここまで減少したのは、皮などに利用するために大量に捕獲されてきたことや、生息地の環境の悪化、えさとなる魚の減少などが大きな原因ですが、動物園や水族館で飼育するために数多く捕獲されたことも影響していると考えられています。